

110周年事業（比較文化学部）

ニュースレター 第3号

アイルランド大使館による講演会を開催

比較文化学部が企画する110周年事業のひとつである「大使館リレートーク」企画の第二弾として、6月7日（木）に、アイルランド大使館のジョナサン・パッチェル副代表・参事官を「ヨーロッパ研究入門 BI（思想と宗教）」の授業にお招きし、講演をしていただきました。



パッチェル副代表による講演の様子

「Introducing Ireland: A Changing Society」と題した講演では、まず、アイルランドの国土、風土、宗教、そして歴史、とりわけイギリスとの関係について説明がありました。つづいて、アイルランドがEU（European Union：ヨーロッパ連合）に加盟している意味、そして歴史的に関係が深かったイギリスのEU離脱についてのお話がありました。

さらに、アイルランドが取り組んできた社会問題として、死刑廃止問題、LGBTの権利、中絶問題が紹介され、国民投票をたびたび実施しながら議論を深めてきた様子が伝えられました。



パッチェル副代表による講演の様子

「重要な社会問題をめぐって、しばしば国民投票が実施されてきた」という事実は、選挙権を有している学生それぞれに強い印象を与えました。また質疑応答の時間には、パッチェル副代表からフロア参加者に対して死刑廃止について意見を求められる場面があるなど、死刑廃止をはじめとする社会問題を身近な問題としてとらえてみるよい機会となりました。

講演の後は、G棟のアクティブラウンジに移動してコーヒータムを開催しました。パッチェル副代表、教員、有志の学生とのあいだで、アイルランドのこと、アイルランドと日本の関係などについて懇談しました。



コーヒータムでの談話の様子



コーヒータイムでの談話の様子



コーヒータイム終了時の集合写真

今回の講演は、ヨーロッパ文化コースに所属する2年生が参加している授業のなかで実施しました。来年ゼミを通じて専門性を高めて卒業論文を準備するみなさんにとって、今回の講演会で得たことが参考や刺激になればと願っています。また、コーヒータイムに参加した学生は、自身の考えを直接英語で伝えて相手のお話を英語で受け止めるよい機会に恵まれました。はじめて英語で本格的なコミュニケーションをとった学生、既にこれまで英語学習に取り組んできた学生、それぞれに得たことがあったと思います。

講演の運営は、前回（駐日欧州連合代表部による講演会）と同様、有志の学生が担当しました。講演者の接遇・誘導から、申込受付、会場設営、参加者誘導、写真撮影、資料配付やアンケート回収にいたるまで、学生スタッフが担っていました。紙幅の都合で全員の名前を挙げるこ

とができませんが、ここにお礼を申し上げます。また、設営やコーヒータイムの準備には、大学関係者の支援が欠かせませんでした。ご支援いただいた関係者のみなさんにはお礼を申し上げます。

告知

7月14日（土）に、シンポジウム「女子大学の可能性と未来への展望を拓く」が開催されます。学内にもポスターが掲示されておりますが、次第は以下のとおりです。ふるってご参加下さい。

日時： 7月14日（土）14:00-17:00 （開場 13:30）

場所： 千代田キャンパス大学校舎 H 棟 113 教室

入場無料

問い合わせ先： 2018hikakusymposium@gmail.com

<プログラム>

基調報告

伊藤正直学長（大妻女子大学）

「女子高等教育とジェンダー」

高橋裕子学長（津田塾大学）

「21 世紀における女子大学のコア・バリューズ

～セブンシスターズにおける二つの「共学」論争を通して考える～」

コメンテーター

宇沢美子教授（慶應義塾大学文学部）

赤松美和子准教授（大妻女子大学比較文化学部）

司会・進行

石川照子（大妻女子大学比較文化学部教授）

北原零未（大妻女子大学非常勤講師）

110 周年事業（比較文化学部）

ニューズレター 第3号

発行日：2018 年 6 月 20 日

発行者： 井上 淳